

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を前年度と同程度以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を70%以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。(カリキュラム改革関連)</p> <p>③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈の記録で前年度より上回る。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【健康的な生活習慣】 保健委員による月に一度の清潔調べや学期に一度の健康週間の実施さらには「保健だより」などの活用を通して、ハンカチやティッシュを携帯し、手洗い・うがいをする習慣が身につくように指導する。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 健康週間がんばりカードによる実態調査で、手洗いをしていると回答する児童の割合を年度末には80%以上にする。 保健委員による月1回の清潔調べで、「ハンカチ、ティッシュを持って来ている」と答える児童の割合をどの学級も80%以上にする。 		
取組内容②【食育】 食事の大切さに関心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭による授業を各学年、年2回行う。 給食週間がんばりカードで「残さず食べた」と回答する児童の割合を80%以上にする。 		
取組内容③【体育的活動の充実】 年間を通して柔軟性や持久力向上に向けた取り組みを行う。 (カリキュラム改革関連)		B
指標 <ul style="list-style-type: none"> 体育の授業や運動遊びで継続的な取り組みを全学年で行う。(ストレッチ・縄跳び・水泳など) 「全国体力・運動能力、運動習慣調査」・「体力・運動能力調査」の結果 <ul style="list-style-type: none"> 課題のある柔軟性を高めるための取り組みを全学年で行う。 学期ごとに長座体前屈の記録をとり、1学期の記録を上回るようにする。 		

取組内容④【体育的活動の充実】 体育の授業やPTA・地域と連携した水泳指導やスポーツ活動を推進することで、進んで体力づくりに取り組むことができるようにする。 <div style="text-align: right;">(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)</div>	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の水泳指導への積極的な参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季休業中の水泳指導に参加する児童を前年度と同程度に保つ。 ○ 学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	

年度目標の進捗状況や経過達成状況の結果と分析
取組内容①【 健康的な生活習慣 】 健康週間やがんばりカード、保健委員会による清潔調べなどを通して指導してきた結果、手洗いや、ハンカチ・ティッシュの携帯率については、実態調査の結果がともに80%以上で目標を達成した。しかし、寒い時期にはハンカチやティッシュを携帯する児童が減少し、手洗いについても丁寧に洗うことが十分とは言えない。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康週間を年3回実施した。2月のがんばりカードの手洗いに関する項目の達成率は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 給食前：97% ・ トイレの後：98% ・ 運動後：83%。 運動後の手洗いは、学年差が見られる。 ○ 健康週間ががんばりカードでは、歯磨き・朝ごはんについても高い達成率で、学年差も少なく、目標を達成できている。 ○ ハンカチ・ティッシュの携帯について、清潔調べにおいては、学級差が大きい。ハンカチの携帯は3学期に学校として80%を超えたが、ティッシュは、年間を通じて70%程度であった。目標を達成しておらず、普段の携帯がまだ十分とは言えない。 取組内容②【 食育 】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養教諭による年間2回の指導や、給食だよりの活用により、食に対する指導を計画的に行うことができた。 ○ 日々の指導や、給食頑張りカードの活用により、給食の残食は少ない。給食週間ががんばりカードで「残さず食べた」と答えた児童の割合は、96%となり、目標を達成した。 取組内容③【 体育的活動の充実 】 <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、体育の授業づくりを工夫し、柔軟性や柔軟性をはじめ体力の向上に向けた指導を行った。とくに、夏の水泳指導、冬季は運動遊びを交えて縄跳びを取り入れた体力づくりを学校としておこなった。 ○ 年間を通して柔軟性を高める運動を取り入れている。本年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」では、長座体前屈の平均値が、男女とも全国平均を上回ることができた。数年来の成果である。しかし、ソフトボール投げは、男女とも全国・大阪市の平均を下回った。

- 長座体前屈は、学期ごとに記録をとった。1 学期より記録が伸びたのは、男子：1 2 学級中 9 学級、女子：1 2 学級中 1 0 学級で、継続した取り組みの成果は確認できた。

取組内容④【 体育的活動の充実 】

- 夏季休業中のプール開放については、昨年度を超える児童の参加があった。
- ・ 8 日の実施予定で 7 日実施
 - ・ 参加児童数は 791 人で、1 日平均約 99 人だった。1 日当たりの参加者は前年度の 91 人を上回った。
- 日々の指導により、学校生活アンケートで「運動することが好き」の項目に当てはまると答える児童の割合は 8 7 . 3 % となり、昨年度を超える数値を得たが、9 0 % という目標については、わずかに及ばなかった。しかし、嫌いと答える児童が、昨年度は 1 1 % いたが、本年度は 3 . 7 % となり、大幅に減少した。

次年度への改善点

- ① 寒い時期について、ハンカチ・ティッシュの携帯や手洗いについて継続指導が必要である。
- ② 個別に食べることが苦手な児童に対して、食に対する指導を継続することが必要である。
- ③ 特定の学年の児童の肥満度が全国平均を大きく上回っており、肥満傾向にある児童に対しての指導を工夫して行っていく必要がある。そのため、体育館棟の保管場所及び用具等の整備が必要である。
- ④ 各学年の目標に達しない児童が少しいるため、泳げない児童を集めて集中した指導を行うことが必要である。